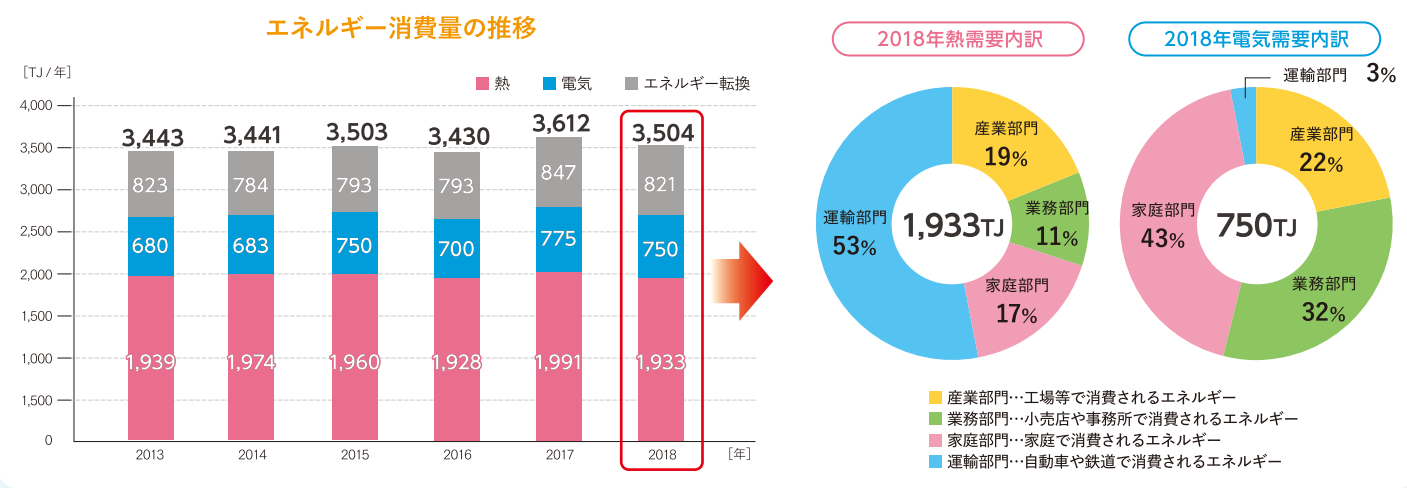


「ゼロカーボン戦略」策定の背景

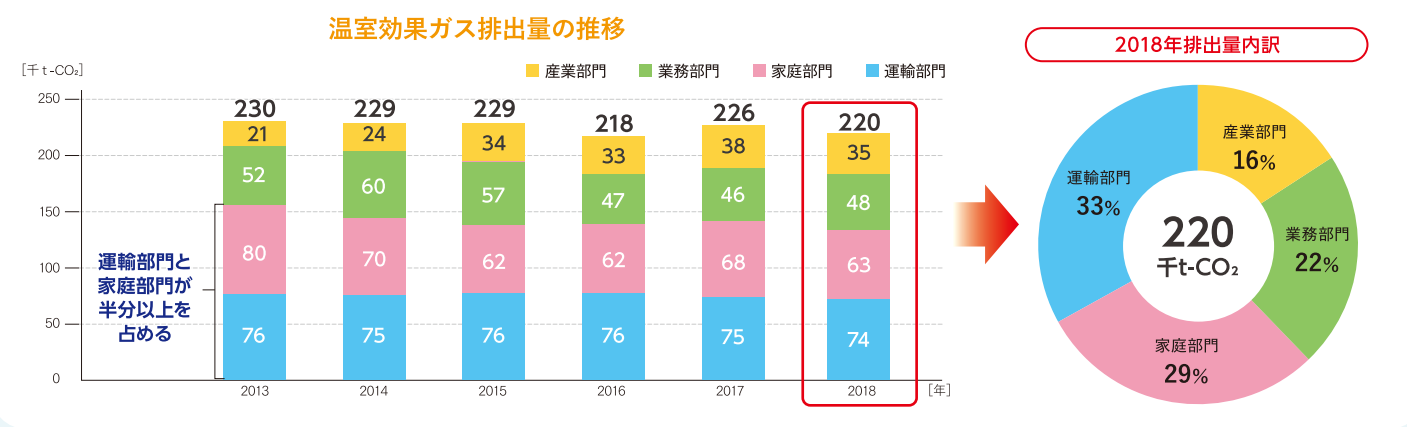
- 産業革命以来、人間の経済活動等により、CO₂をはじめとする温室効果ガスが増加し、地球温暖化の要因となっています。地球温暖化による気候変動の影響により、海面水位の変化、洪水や干ばつなど、人間の生活や自然の生態系などに様々な影響が出ています。
- 富谷市では、「とみやからはじまる未来の暮らし」をテーマに掲げ、2017年度から環境省「地域連携低炭素水素技術実証事業」に取り組むとともに、水素エネルギーの有用性に関するイベントやフォーラムなど、次世代を担う子どもたちへ環境教育と市民啓発を実施、2021年からは燃料電池バスの運行実証に取組んでいます。
- 富谷市総合計画では、将来にわたり安全安心に暮らすことができる豊かな環境を引き継いでいくため、資源循環・エネルギーの地産地消など、地球環境に貢献するまちづくりを進めており、2021年2月に、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」を宣言し、脱炭素に向けた取り組みを今後より一層進めることといたしました。
- 「富谷市2050年ゼロカーボン戦略」は、2050年の「ゼロカーボンシティ」の実現を目指し、市民や事業者、行政が行う省エネルギーや再生可能エネルギーにかかる設備の積極的な導入、水素社会の実現に向けた各種の実証事業の実現、環境教育や普及啓発の推進など、取り組むべき戦略をまとめたものです。

富谷市のエネルギー消費量と温室効果ガス排出量の現況

- 2018年の富谷市全体のエネルギー消費量は3,504TJ（テラジュール）/年となります。電力需要は家庭部門が全体の43%を占めているため、特に**家庭における省エネ対策が重要**であることがわかります。また、熱需要は運輸部門が53%を占めており、これらの対策も重要になります。

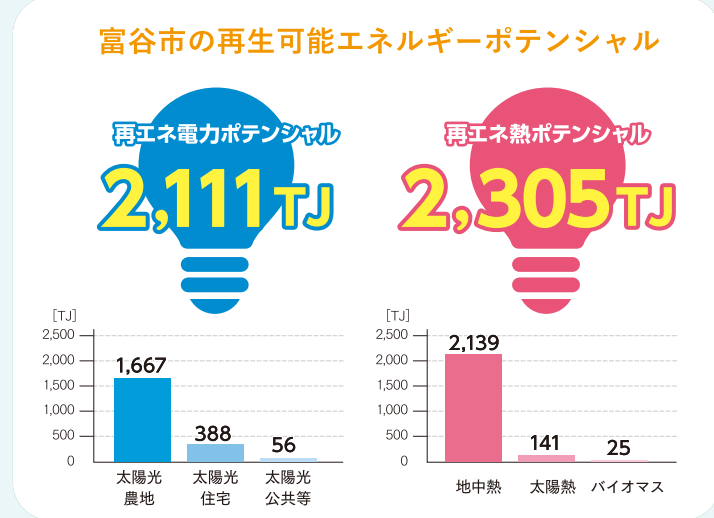
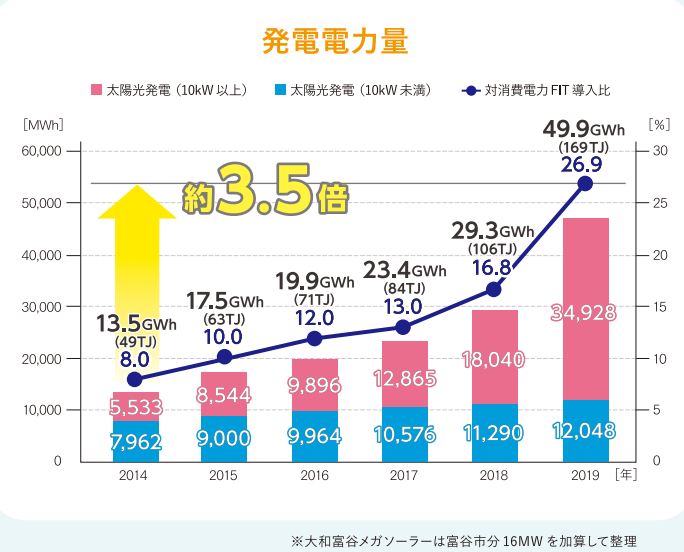


- 2018年の温室効果ガス排出量は220千t-CO₂で、運輸部門が全体の33%、家庭部門が29%となっており、この2つの部門で全体の排出量の半分以上を占めていることが大きな特徴です。また、富谷市は**今後も人口が増加することが見込まれており、現状のまま何も対策をしない場合、温室効果ガスの排出量はますます増加**することとなります。



富谷市の再生可能エネルギーの導入状況とポテンシャル

- これまで富谷市で導入された再生可能エネルギー（FIT）は、大和富谷メガソーラーやスマートコモンシティ明石台等での太陽光発電が中心となっており、発電総量としては、2019年では2014年と比べて約3.5倍に増加しています。
- 富谷市内では、太陽光発電と地中熱利用を中心に再生可能エネルギーのポテンシャルが分布しており、今後は、これらのエネルギーを上手に利用していくことが課題です。



※大和富谷メガソーラーは富谷市分16MWを加算して整理

脱炭素シナリオと再エネ導入目標

- 2050年の温室効果ガス排出量実施ゼロに向けて、今後の市内の対策の必要量としては、2030年に72千t、2040年に138千t、2050年に198千tの温室効果ガス排出量の削減が必要であると試算しています。
- これを達成するため、市内の再生可能エネルギー等の導入必要量は、2030年に734TJ、2040年に1,433TJ、2050年に2,076TJになると試算しています。

目標	ターゲット年と目標値			目標イメージ
	2030	2040	2050	
温室効果ガス排出量 (千t-CO ₂ /年)	124 千t-CO ₂ (基準年比-46%)	62 千t-CO ₂ (基準年比-73%)	0 千t-CO ₂ (実質ゼロ)	温室効果ガス排出量の将来推計と脱炭素に向けたシナリオ (国による省エネエネルギーの導入効果を考慮)
再エネ電気導入量 (GWh/年)	57.0 GWh/年 (205TJ/年)	111.3 GWh/年 (401TJ/年)	161.2 GWh/年 (580TJ/年)	エネルギー消費量の推計と再エネ等の導入目標